

第1期中期目標期間に係る業務実績 自己評価の概要

資料 1-6

自己評価の考え方

■適切な自己評価を行うため、以下の基準に基づき、自己評価を実施した。

<自己評価基準>

①. 各計画の達成水準1つずつについて、以下の基準に基づき評価を行う。

「5」：達成度が120%以上で、顕著な実績又は特に優れた成果が認められるもの

「4」：達成度が105%以上と認められるもの

「3」：達成度が90%以上、105%未満と認められるもの

「2」：達成度が60%以上、90%未満と認められるもの

「1」：達成度が60%未満と認められるもの

②. ①の達成水準の各事項の評価から計画全体での平均値を算出し、以下の基準を目安として各計画の総合評価を行う。

「V」：3.6以上であって、顕著な実績又は特に優れた成果が認められるもの

「IV」：3.15以上

「III」：2.7以上、3.15未満

「II」：1.8以上、2.7未満

「I」：1.8未満

<自己評価の概要>

| | V | IV | III | II | I | 項目数 | 対象となる年度計画No |
|--|---|----|-----|----|---|-----|-------------|
| ① 教育研究等の質の向上に関する措置 (大阪公立大学) | 3 | 4 | 19 | 0 | 0 | 26 | No.1~No.26 |
| ② 教育研究等の質の向上に関する措置 (大阪公立大学工業高等専門学校) | 0 | 0 | 7 | 0 | 0 | 7 | No.27~No.33 |
| ③ 教育研究等の質の向上に関する措置 (大阪府立大学及び大阪市立大学) | 2 | 0 | 8 | 0 | 0 | 10 | No.34~No.43 |
| ④ 業務運営の改善及び効率化に関する措置 | 1 | 2 | 4 | 0 | 0 | 7 | No.44~No.50 |
| ⑤ 財務内容の改善に関する措置 | 0 | 1 | 1 | 0 | 0 | 2 | No.51~No.52 |
| ⑥ 自己点検・評価及び当該状況に係る情報の提供に関する措置 | 1 | 0 | 2 | 0 | 0 | 3 | No.53~No.55 |
| ⑦ その他業務運営に関する重要目標を達成するための措置 | 0 | 1 | 9 | 0 | 0 | 10 | No.56~No.65 |
| 合計 | 7 | 8 | 50 | 0 | 0 | 65 | |

11% 12% 77% 0% 0%

【自己評価】

法人は、中期計画の小項目ごとに、計画及び取組実績に基づき、次に掲げる評価基準により業務実績報告書に自己評価を記入する。(公立大学法人大阪 中期目標期間等に係る業務実績評価実施要領)

- 「V」 中期計画を大幅に上回って実施した
・顕著な実績又は特に優れた成果が認められる場合
- 「IV」 中期計画を上回って実施した
・達成度が計画を上回る取組、実績又は成果を挙げた場合
- 「III」 中期計画を十分に実施した
・達成度が計画どおりと認められる場合
- 「II」 中期計画を十分には実施できなかった
・達成度がやや下回るもののおおむね計画どおりと認められる場合
- 「I」 中期計画を実施していない
・達成度が計画より大幅に下回る場合

III 評価以外と判断した理由等

< 第1期中期目標期間に係る業務実績 >

■ V 評価の項目（7 項目）

| 計画 No. | 事項 | 判断理由 |
|--------|--------|--|
| 7 | 課外活動支援 | <p>課外活動の教育的効果の推進を目的とした助成制度「大阪公立大学 課外活動推進経費助成事業（OMU-SPEAK）」の募集を行い、審査委員会による審査を経て、2022年度は10件、2023年度は12件、2024年度は15件の支援を実施し、いずれも目標を上回る実績となった。また専任のボランティアコーディネーターを配置するとともに、中百舌鳥キャンパス及び杉本キャンパスでボランティアセンター説明会を複数回実施し、2022年度は140名、2023年度は166名、2024年度は154名の学生が新規登録を行い、いずれも目標を大きく上回る新規登録学生数となった。これらの取組を踏まえ、V評価とした。</p> <p>■大阪公立大学 課外活動推進経費助成事業（OMU-SPEAK） 応募及び採択状況 2024年度：応募52件のうち採択15件 /目標10件（達成率150%） 2023年度：応募39件のうち採択12件 /目標10件（達成率110%） 2022年度：応募45件のうち採択10件 /目標10件（達成率100%）</p> <p>■ボランティアセンター新規登録学生数 2024年度：154名（うち活動参加者110名）/目標130名（達成率118%） 2023年度：166名（うち活動参加者125名）/目標130名（達成率128%） 2022年度：140名/目標120名（達成率117%）</p> |
| 8 | キャリア支援 | <p>就職活動対象学生イベントに限らず、低学年向け、留学生向けイベントを中百舌鳥、杉本両キャンパスで年間を通じて開催した。また、キャリアカウンセラーについては新たに5名を増員するとともに、学生の相談が特に多い時期（4月～6月、12月～3月）においては、適宜増員を図って個別相談枠を増やし、学生の相談ニーズに丁寧に応えることに努めた。個別キャリア相談数は2022年度5,207件、2023年度5,889件、2024年度5,564件となり、いずれも目標を大きく上回った。就職支援イベント参加者数は2022年度8,851名、2023年度9,018名、2024年度11,194名となり大きく増加した。これらの取組を踏まえ、V評価とした。</p> <p>■個別キャリア相談数 2024年度：5,564件/目標5,200件（達成率107%） 2023年度：5,889件/目標4,000件（達成率142%） 2022年度：5,207件/目標4,000件（達成率130%）</p> <p>■就職支援イベント参加者数 2024年度：延べ11,194名 2023年度：延べ9,018名 2022年度：延べ8,851名</p> |

| 計画 No. | 事項 | 判断理由 |
|-----------|--------|--|
| 12 | 研究力の強化 | <p>女性研究者支援室によるスキルアップセミナーの実施回数が目標を上回る実績となった。若手研究者等（博士後期学生含む）への申請支援について、2022年度73件、2023年度76件、2024年度80件となり、いずれも目標を大きく上回る実績となった。また、2023年度にはPD雇用制度を導入し、雇用PDによる研究発表会・交流会を実施した。2024年度には、通常の申請支援に加えて、研究サポートセンターにてオフィスアワーでの相談対応を強化し（28人）、さらにキャリア支援、研究力向上セミナーを開催し（全6回/188人）、PD研究発表会を1回開催した。博士後期課程学生へのメンタリングについても、2022年度361件、2023年度685件、2024年度569件と大きく増加した。これらの取組実績を踏まえ、V評価とした。</p> <p>■スキルアップセミナー実施回数 2024年度：6回/目標4回（達成率150%） 2023年度：4回/目標2回（達成率200%） 2022年度：4回/目標2回（達成率200%）</p> <p>■若手研究者等（博士後期学生含む）への申請支援 2024年度：80件/目標70件（達成率114%） 2023年度：76件/目標50件（達成率152%） 2022年度：73件</p> <p>■博士後期課程学生へのメンタリング実施 2024年度：569件 2023年度：685件 2022年度：361件</p> |

| 計画 No. | 事項 | 判断理由 |
|-----------|-------------|--|
| 41 | (府大) キャリア支援 | <p>【計画No.8の再掲】 就職活動対象学生イベントに限らず、低学年向け、留学生向けイベントを中百舌鳥、杉本両キャンパスで年間を通じて開催した。また、キャリアカウンセラーについては新たに5名を増員するとともに、学生の相談が特に多い時期（4月～6月、12月～3月）においては、適宜増員を図って個別相談枠を増やし、学生の相談ニーズに丁寧に応えることに努めた。個別キャリア相談数は2022年度5,207件、2023年度5,889件、2024年度5,564件となり、いずれも目標を大きく上回った。就職支援イベント参加者数は2022年度8,851名、2023年度9,018名、2024年度11,194名となり大きく増加した。これらの取組を踏まえ、V評価とした。</p> <p>■個別キャリア相談数 2024年度：5,564件/目標5,200件（達成率107%） 2023年度：5,889件/目標4,000件（達成率142%） 2022年度：5,207件/目標4,000件（達成率130%）</p> <p>■就職支援イベント参加者数 2024年度：延べ11,194名 2023年度：延べ9,018名 2022年度：延べ8,851名</p> |
| 43 | (市大) キャリア支援 | <p>【計画No.8の再掲】 就職活動対象学生イベントに限らず、低学年向け、留学生向けイベントを中百舌鳥、杉本両キャンパスで年間を通じて開催した。また、キャリアカウンセラーについては新たに5名を増員するとともに、学生の相談が特に多い時期（4月～6月、12月～3月）においては、適宜増員を図って個別相談枠を増やし、学生の相談ニーズに丁寧に応えることに努めた。個別キャリア相談数は2022年度5,207件、2023年度5,889件、2024年度5,564件となり、いずれも目標を大きく上回った。就職支援イベント参加者数は2022年度8,851名、2023年度9,018名、2024年度11,194名となり大きく増加した。これらの取組を踏まえ、V評価とした。</p> <p>■個別キャリア相談数 2024年度：5,564件/目標5,200件（達成率107%） 2023年度：5,889件/目標4,000件（達成率142%） 2022年度：5,207件/目標4,000件（達成率130%）</p> <p>■就職支援イベント参加者数 2024年度：延べ11,194名 2023年度：延べ9,018名 2022年度：延べ8,851名</p> |

| 計画 No. | 事項 | 判断理由 |
|-----------|------------|--|
| 49 | ダイバーシティの推進 | <p>2025年4月1日時点において、教授職の女性比率、女性職員の管理職比率、外国人教員比率がいずれも目標を上回る実績となった。またライフイベントによらず研究者が活躍できる環境を整備するため、研究支援員を配置（2022年度69名、2023年度76名、2024年度87名の教員・研究者へ配置）した。さらに研究者を対象とする各種相談窓口について、介護相談員窓口を月2回実施した。その他の達成水準についても順調に実施できていることから、V評価とした。</p> <p>■女性教員比率（4月1日時点） 2025：21.2%/目標20%（達成率106%） 2024：19.8% 2023：19.2% 2022：18.7%</p> <p>■教授職の女性比率（4月1日時点） 2025：18.1%/目標15%（達成率120%） 2024：17.1% 2023：15.5% 2022：13.5%</p> <p>■女性職員の管理職比率（4月1日時点） 2025：25%/目標20%（達成率121%） 2024：25% 2023：21.9% 2022：23.5%</p> <p>■外国人教員比率（4月1日時点） 2025：3.5%/目標3.1%（達成率115%） 2024：2.9% 2023：2.7% 2022：2.8%</p> |
| 55 | 戦略的広報 | <p>記者向け懇談会・イベントの開催や社会人向けWebマガジン「OMUOM」の立ち上げ、学生広報スタッフによる森之宮キャンパス広報など、積極的な広報活動を実施し、取材依頼の獲得や関係構築に繋がった。また日本語および英語の研究プレスリリースの発信を強化し、2024年度は日本語研究プレスリリースを177件、英語研究プレスリリースを131件実施し、いずれも2022年度から大きく増加している。その他の達成水準においても順調に実施したことから、V評価とした。</p> <p>■記者向け懇談会・イベント実施 2024：4回 2023：4回 2022：5回</p> <p>■日本語の研究プレスリリース発信件数 2024：177件/目標100件（達成率177%） 2023：104件/目標100件（達成率104%） 2022：100件/目標90件（達成率111%）</p> <p>■英語の研究プレスリリース発信件数 2024：131件/目標50件（達成率262%） 2023：50件/目標60件（達成率83%） 2022：79件/目標40件（達成率197%）</p> |

■IV評価の項目（8項目）

| 計画 No. | 事項 | 判断理由 |
|-----------|--------------|---|
| 15 | 諸機関との連携強化 | <p>地域からの多様な課題を解決に導くための方策として、受託事業及び連携事業を実施した。2022年度は7件、2023年度は5件、2024年度は5件となり、目標を上回る実績となった。また、大阪府・大阪市とのさらなる連携の推進をめざし、各部局から挙げられた行政ニーズに対して、学内の教育・研究シーズとのマッチングを行う大阪府・連携事業、大阪市・連携サポート事業（予算あり）を実施し、年間を通じてコーディネート・実施支援を行った。加えて、地域連携センターへの相談件数をはじめ、その他の達成水準についても順調に実施できていることから、IV評価とした。</p> <p>■地域連携センターへの相談件数 2024年度：101件 /目標110件（達成率92%） 2023年度：126件 /目標110件（達成率115%） 2022年度：123件 /目標80件（達成率154%）</p> |
| 17 | 生涯学習への貢献 | <p>新規公開講座「公大講座」の企画・検討について、アンケートにおける希望のテーマ分野や社会動向、開催場所なども踏まえたうえで検討し、2022年度は7件、2023年度は5件、2024年度は4件の新規講座を企画し、目標を大きく上回る実績となった。また、公開講座の開催件数をはじめ、その他の実績においても目標を上回る順調な進捗であることから、IV評価とした。</p> <p>■I-siteなんば等都心部のキャンパスを利用した公開講座の開催件数 2024年度：46件 /目標25件（達成率184%） 2023年度：51件 /目標25件（達成率204%） 2022年度：61件 /目標40件（達成率152%）</p> <p>■土日・平日夜間における公開講座及びオンラインでの公開講座の開催件数 2024年度：66件 /目標25件（達成率264%） 2023年度：76件 /目標25件（達成率304%） 2022年度：97件 /目標35件（達成率277%）</p> |
| 21 | 研究における国際力の強化 | <p>次世代研究者挑戦的研究プログラム、大学フェローシップ事業により、博士後期課程・博士課程学生や教職員の海外派遣支援の充実を図った。2024年度は国際会議114件、海外留学件33件、海外副指導教員との交流等9件、海外活動8件となり、2022年度から大きく増加している。またその他の達成水準も順調に実施できていることから、IV評価とした。</p> <p>■次世代研究者挑戦的研究プログラム 2024年度：164件（国際会議114件、海外留学件33件、海外副指導教員との交流等の支援9件、その他海外活動支援8件） 2023年度：104件（国際会議59件、海外留学18件、その他海外活動支援27件） 2022年度：42件（国際会議22件、海外副指導教員との交流等の支援1件、海外派遣19件）</p> <p>■大学フェローシップ事業（2024年度より次世代研究者挑戦的研究プログラムに統合） 2023年度：50件（国際会議30件、海外留学13件、その他海外活動等支援7件） 2022年度：24件（国際会議16件、海外副指導教員との交流等の支援3件、その他海外活動等支援5件）</p> |

| 計画 No. | 事項 | 判断理由 |
|-----------|------------------|---|
| 25 | 地域医療及び市民への 貢献 | <p>造血幹細胞移植推進拠点病院の役割として、地域の医療従事者を対象としたセミナー等の開催実績など、中期計画期間を通して高い達成率となった。新型コロナウイルス感染症の重症患者対応について、2022年度は3次救急受入体制を維持しつつ、大阪市の依頼による輪番制や3次救急における重症患者対応を継続実施するとともに、府市の要請に基づき、近隣医療機関でのクラスター発生時の事後対応への助言体制を整備した。市民病院機構との連携について、経営改善に関する情報共有を目的に、双方の執行会議にそれぞれの理事が外部委員として参加した。各診療科からも医師を派遣しており、強固な連携体制を構築している。その他の達成水準についても順調に実施できていることから、IV評価とした。</p> <p>■地域医療者を対象としたセミナー、ワークショップ、研修の開催件数 2024年度：16件/目標5件（達成率320%） 2023年度：14件/目標5件（達成率280%） 2022年度：12件/目標5件（達成率240%）</p> <p>■教育用のテキスト、e-learning改定、作成 2024年度：14課題/目標3課題（達成率467%） 2023年度：30課題/目標3課題（達成率1,000%） 2022年度：10課題/目標3課題（達成率333%）</p> |
| 47 | DXの推進 | <p>森之宮キャンパス施設での環境整備について、設備統合ネットワークの構築に加えて、現地動作試験、本学教授により開発されたDMZとBACnet通信について動作試験を行い、空調設備、照明制御、監視カメラなど約6,000点について試験を行うなど、設備統合ネットワークにかかる学内側動作についての試験を実施、完了した。その他の達成水準についても順調に実施できていることから、IV評価とした。</p> |
| 48 | 人事給与制度 | <p>通常のテニュアトラック制度よりも研究支援面でのインセンティブを拡充した高インセンティブ型テニュアトラック制度について制度設計を行った。また、研究者のパートナーである教育研究系技術職員やURAにかかる新たなキャリアパスについて制度設計を行い、さらに高度な専門性を有する人材に関して、その専門性に見合う高報酬を適用することのできる高度専門職員制度について制度設計を行った。その他の達成水準についても順調に実施できていることから、IV評価とした。</p> |
| 51 | 自己収入の確保 | <p>外部資金の獲得に関して、URAの活動やマッチングイベント等の産学官連携活動により、共同研究等の外部資金獲得支援を実施している。2022年度は94.1億円、2023年度は各種競争的研究費や内閣府「地域中核大学イノベーション創出環境強化事業（BRIDGE）」など117億円、2024年度は138億円の外部資金を獲得し、いずれも目標を大きく上回る取組となった。その他の達成水準についても順調に実施できていることから、IV評価とした。</p> <p>■外部資金獲得実績 2024：138億円/目標87.7億円（達成率157%） 2023：117億円 2022：94.1億円</p> |
| 59 | 環境マネジメント | <p>大学キャンパスのゼロカーボン化に向けた取組の方針やロードマップ等の策定に関して、2024年度に森之宮キャンパスの工事が竣工し、実施設計時CASBEE Aランクを取得済のところ、竣工後はCASBEE Sランク、ZEB oriented取得予定となり、実施設計時を上回る評価となった。その他の達成水準についても順調に実施できていることから、IV評価とした。</p> |